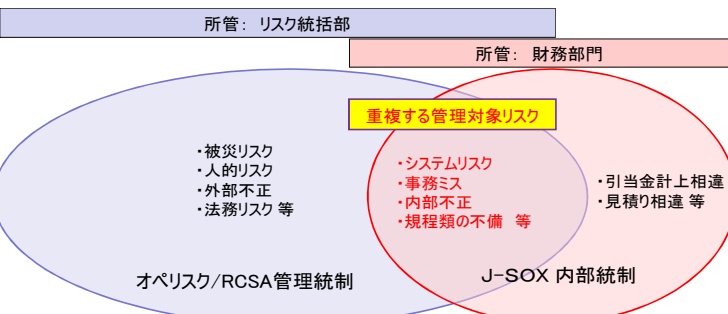


金融機関向け「オペレーショナルリスク」管理 - RCSAと内部統制の統合リスク管理 Solution -

iGrafx for Operisk の目的

銀行・保険・証券等の金融機関では各種の規制を管理するために、新たな所管部署を作り個別に対応してきました。それにより、事務リスクやシステムリスク、コンプライアンス等が様々な部署で管理され、各部署や営業店の現場では作業の重複が起り、結果としてコストや人的資源の負荷が生じています。加えて、管理範囲が拡大しているため、潜在するリスクを正確かつ網羅的に把握できておらず、リスクへの対応が不十分になっている可能性があります。**iGrafx for Operisk**は、特にSOX内部統制とRCSAなどのオペレーショナルリスク管理統制を個々に対応するのではなく、統合的に行うプロセスベースのリスク管理ソリューションです。管理を一元化することで、リスク認識の正確性と網羅性を確保しながら対応コストを削減し、企業内のコンプライアンスと業務プロセス改善の環境基盤を構築します。

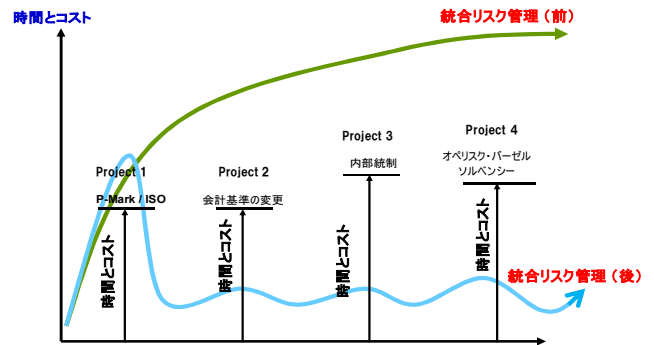
Solutionの目的 - 1 Riskの重複排除と正確性・網羅性の確保



※RCSA: リスクコントロールセルフアセスメント

重複するリスクと管理項目の拡大

Solutionの目的 - 2 手間とコストの削減

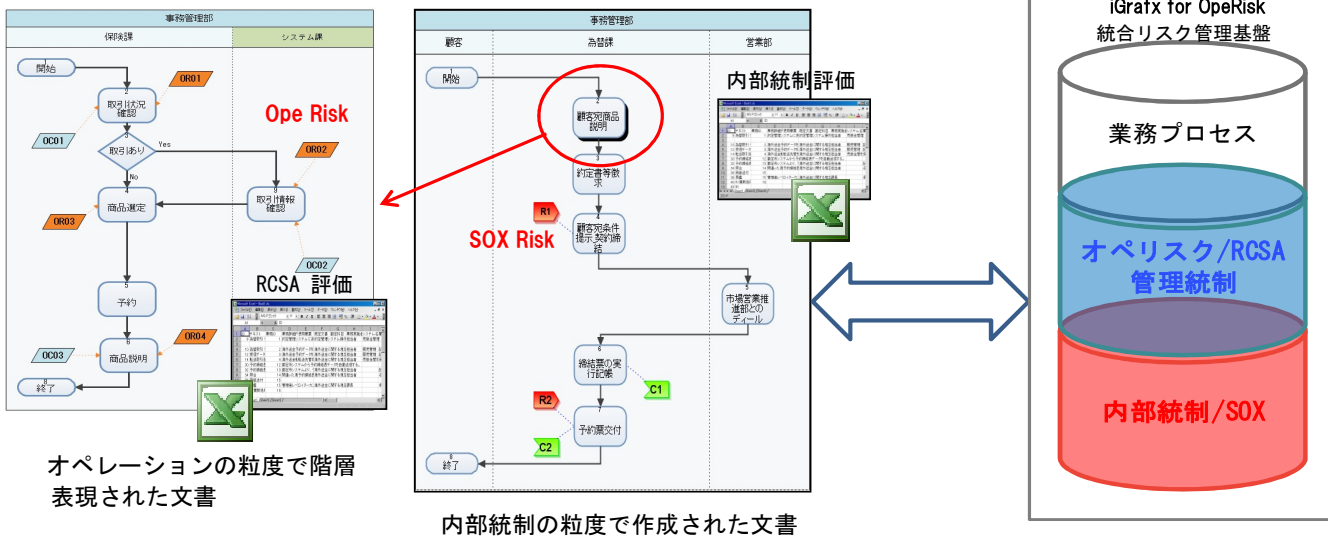


各規制毎の対応によるコストと手間の増大

iGrafx for OperiskでRCSA管理とSOX 管理を統合

SOXの評価フレームワークは外部監査にも耐える必要があるため、そのリスク情報は既存のリスク管理に代替する余地もあります。しかし、RCSAを目的としたオペレーショナルリスク管理は、目的によりリスクの認識単位、プロセスの粒度、統制活動の表現方法が異なり、単純にリスクの重複を突き合わせて消去することはできません。既にiGrafxをSOXの文書化ツールとしてご活用されているお客様には、**iGrafx for Operisk**により処理ステップ毎に管理対象であるオペレーショナルリスクを文書に落とし込むことで、SOXで認識されたリスクや統制活動と関連付けすることができます。結果として統合的なリスク管理の環境基盤が構築できます。また、SOX文書をエクセルなどの他のツールで作成されている場合は、エクセルからiGrafxへの変換プログラムをご提供することも可能です。

プロセスの階層を可視化



業務プロセスの可視化とリスクシナリオの定義

iGrafx for OpeRiskは、既に内部統制で利用しているiGrafxの図表データを直接表示することができ、しかも、内部統制に関わるリスク情報を閲覧し参照することが可能です。既に定義済みのリスク・コントロール(内部統制含む)と同一のリスク・コントロール内容が存在する場合は、その共通の項目をオペリスクリク/RCSA定義画面に読み込むことが可能です。これにより類似プロセス間でのリスク・コントロールの粒度不統一が減少し、リスクの網羅性と正確性が極めて向上する一方で、二重記載の手間を削減し、作業の効率化にも寄与します。

内部統制リスクの閲覧と参照

オペリスク及びSOXリスクの入力画面

特徴

- 簡単操作で業務プロセスを可視化
- プロセス内のリスクが一目瞭然
- オペリスク入力画面の提供
- 内部統制リスク内容の参照
- 外部データの取り込み
- 規程書やマニュアル類のリンク
- 内部統制リスクとオペリスク個別表示
- Webブラウザでのデータの共有

内部統制リスクとオペリスクの同時表示と個別表示を可能にし管理区分を明確に表現

オペリスクシナリオの標準テンプレート

オペリスクとSOXの間でリスクの重複を効率的に抽出しコスト効果の高いリスク管理を実施するには、一定のノウハウが必要となります。金融機関における内部統制監査とオペリスク管理支援で豊富な実績を有する監査法人がリスク管理の標準テンプレートや標準リスクシナリオセットを開発しており、それをiGrafx for OpeRisk上で利用することができます。(標準テンプレート、標準リスクシナリオセットに関しては、弊社までお問い合わせください。)

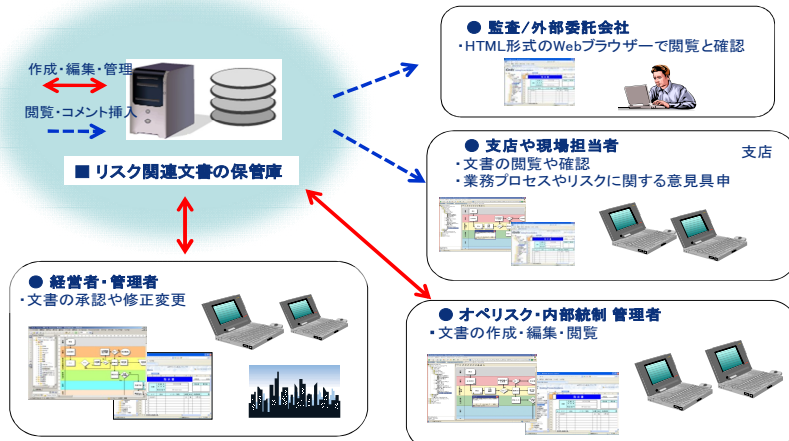
標準リスクシナリオテンプレート

標準コントロールテンプレート

標準RCM出力フォーマット

リスクの統合管理と運用

オペリスク統制管理と内部統制管理を統合的に運用管理するために、iGrafx for OpeRiskではリスク一元管理サーバーを提供しています。SOX文書やRCSA文書のセキュリティを管理し、その原本を一か所にまとめることで文書の検索や変更履歴、承認の設定などが行えます。また、文書はHTML形式で閲覧することが出来るため印刷や配布コストを抑えることができ、紙文書の漏えいを防ぎます。



- 特徴 -

- リスク・コントロールの一元管理
- 内部統制・オペリスクの統合管理
- 業務改善のPDCAサイクルの実現
- 情報の共有化
- 修正変更の履歴管理
- セキュリティ管理や役割分担の定義
- 文書検索機能
- 規程書やマニュアル類のリンク情報管理
- 部門辞書による文書内の組織名一括変換
- 文書承認ワークフロー管理
- 一般文書 (EXCEL/WORD/PDFなど) も管理
- 操作が容易で所管部署で簡単に運用管理
- 所管部署で管理が可能で、導入コストが安価